

1年間の「種まき」から「育てていく2年目」へ



2月28日(土)、岩崎地区の9地区から住民60名が集まり、「第2回いわさき未来会議」が開催されました。この会議は、住民自らが地域の将来を考え、集落支援員と共に歩むまちづくりを目指すものです。

冒頭、平沢町長より「集落支援員をうまく活用し、住民が自ら立ち上がるモデルケースをこの岩崎でつくってほしい」とのあいさつがありました。

続いて事務局より、岩崎地区の現状(人口1,495人、高齢化率約59%)や令和7年度の取り組み状況が報告されました。集落支援員の浪岡さんを岩崎地区に配置して以降、交流スペース「なみおかん」の開設、衣類リサイクル、延べ150人が参加した「うどん教室」、100名が参加した軽スポーツ「ポッチャ」など、対話と交流を軸とした活動が展開されました。



浪岡さんからは「1年間は種まきの時期だった。今では皆さんの顔を覚えることができ、非常に嬉しい。2年目はいよいよ地域の中へ深く入り、皆さんとキャッチボールをしながら活動を育てていきたい」との決意が語られました。

メインプログラムのグループワークでは、昨年引き続き、弘前大学の平井教授が進行を務め、アイスブレイク後に「浪岡さんと活動してよかったこと」「今後2年間で浪岡さんと一緒にやりたいこと」について各地区別のテーブルで熱心な議論が交わされました。

【各地区から出された主な意見】

「ポッチャやうどん教室を続けたい」、「浪岡さんがいなくても自分たちでできるよう技を傳承したい」



一緒にハタハタのすしを作って食べたい。

ポッチャを覚えて頑張る

自立グループを作る(代表者)

若い人が集まると、おしゃべりも楽しくしてほしい

新たな挑戦

「昔の遊び(なわふっぱり等)の調査と継承」、「冬のウォーキングや雪上運動会の開催」、集会所をカフェにして、誰もが集まれる場を作りたい」

集落支援員の期待

「地域の相談役としてこれからも回ってほしい」、「任期が終わってもずっと」

と岩崎にいてほしい」といった熱烈なラブコールが相次ぎました。

今回の会議で出された「やりたいこと」の付箋は、これから一つずつ形にしていくための大切な道標となり、岩崎地区の明るい未来に向けた確かな一歩を共有しました。



グループワークを進行する平井教授



岩崎中・下地区



岩崎中



岩崎下



岩崎上



岩崎上地区



森山地区



正久地区



大間越地区



黒崎地区



松神地区